

【今日のメルマガの目次】

編集後記上段より

上段 ■ 「先進国の中央銀行がどうも QE ジャブジャブマネーの
玉切れである」

中段 ■ 「イギリスカーニー中銀総裁は

MMT をしてなんとか アメリカの債券市場を維持したい」

下段 ■ 「イランが米軍基地爆撃した後

「おかしい動きをした NY ダウと金ゴールド」

の裏のマネーの動きとは？

」

~~~~~

**どうもゆうです！**

**こんばんは！！**

**さてさて、もう2020年も開始しまして**

**多くの会社さんの長い休みも終わり、徐々に多くの人が**

**活動しだしてますね～**

**それで明日のお昼あたりから**

**2020年の**

**注目のFXの無料系の案件も開始するようなので楽しみに！**

**それで、昨日ですが副島先生のカルロスゴーンの話をお送りしました。**

**日本だと1週間くらい前のカルロスゴーンの会見があって**

その後なんとなくそれは終わったような感じ？が演出されてるけど

実際は世界中で日本の司法システムに対して注目が注がれ始めてます。

ちなみに昨日なんかもロイターなんかで

カルロスゴーンと奥さんが日本の検察官僚の問題について

語りだしていて、それがロイターなんかでは

World = 世界関係の記事

ではトップで扱ってたりします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDF レポート【副島先生の最新言論から  
「世界に注目されるカルロスゴーン」  
について考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/soejima\\_carlos.pdf](http://fxgod.net/pdf/soejima_carlos.pdf)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

それでたぶん読者さんの中で

「なんでゴーンは日本のシステムについて

色々ごちゃごちゃ言うのか？」

分からない人も多いと思うんだけど

それを昨日のメールまとめた

PDFではまとめてますね！

やはり世界基準の考え方ってのがあって

「裁判ってのは検事を裁くのが

近代国家、近代デモクラシーの裁判」

であって

裁判は犯罪者を裁くものではない、  
つてのが世界の近代国家の常識 = World Value です。

これ驚きますでしょう、けど本当。

私もこの考え方は早稲田の政治学科で教授に教えてもらって

そこで初めて学んだわけですが、当時

「こんな大事なことを一切自分は教えられないで

教育を受けてきたのか・・・」と驚いたものです。

それで私はこれまで人生で色々学んだことをこのメルマガに書いてるけど、

これって多くの人を知るべき知識ではないかな〜と。

「裁判が終わるまで犯罪者はいない」が

近代国家のデモクラシー裁判なんです。

だから逮捕とかされた時点で日本ではマスコミが

その人、例えば去年だと沢尻えりかさんとか、

ゴーンとかを犯罪者扱いで報道するけど

それ自体・・・日本ってのは

ネットもテレビも、情報事態が異常なんです。

ちなみに私が注目したのが「全く同時期に」

在韓米軍撤退議論を在日米軍撤退議論と同じく

控える私が今いる韓国にて

このムンジェイン大統領による検察（官僚）の改革のニュースが出ていて

韓国の検察改革と、日本の検察改革への世界からの圧力

これは「不思議と同期」してるわけです。

ちなみにゴーンの奥さんは以前に

トランプ大統領に助けを求めたこともある。

これはみんな気づいていないはずですが

偶然にしてはあまりに「日韓の政治事象が同期」してるんです。

その辺も含めて今回のPDFなかなか

読み応えあると思いますから

是非昨日の内容もPDFにしていますんで

読んでみてくださいね～

ちなみに日本のこういう政治システム事態が

もう経済にも影響及ぼして日産の株価なんて

もう以前の1200円台から600円台になっちゃってますけど

この辺の政治部分が日本で改善すれば、

徐々に日本の市場でも長期投資できるような環境に

いつの日か、なるかもしれませんね～

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDFレポート【副島先生の最新言論から  
「世界に注目されるカルロスゴーン」  
について考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/soejima\\_carlos.pdf](http://fxgod.net/pdf/soejima_carlos.pdf)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

さて、それで今日はずばり

世界の金融、について考えて生きてみます！



ちなみにこの前のイラン関係の話で

NY ダウの株と金価格ってのが

「極めて変な動き」をしていたのは

チャートチェックしていた人は覚えてると思います。

あの「変な動き」の正体って何でしょうか？

この辺を今日は考えて行きます。

そこを考えれば、「ああ、2020年代はきっとああいう

変な動きが 頻繁に起こるな～気をつけよ」

と思えると思います。

それでは編集後記で負けなために考えます！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

注目！のPDFレポート

【あなたが「世界中の企業のオーナー」  
になることについて考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/world\\_owner.pdf](http://fxgod.net/pdf/world_owner.pdf)

PDFレポート【2020年もガッツリ検証していこう！】

（副題：お金を好きな人は散財せず  
負けない投資を心がける）

⇒ [http://fxgod.net/pdf/2020\\_kenshou.pdf](http://fxgod.net/pdf/2020_kenshou.pdf)

PDFレポート

【年始からイランと「うまくやった」トランプ大統領】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/iran\\_trump2020.pdf](http://fxgod.net/pdf/iran_trump2020.pdf)

PDFレポート

【「ソフトバンクの孫正義氏」と  
「アリババ」と「ブロックチェーン」について考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/son\\_alibaba.pdf](http://fxgod.net/pdf/son_alibaba.pdf)

PDFレポート

【ついに「金ゴールドが1グラム6000円」を超えた！？】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/gold\\_6000.pdf](http://fxgod.net/pdf/gold_6000.pdf)

PDFレポート（写真23枚）年末の韓国ソウルの様子！

&氷点下の中でタクシーが

見つからなかった話

⇒ [http://fxgod.net/pdf/korea\\_nenmatu.pdf](http://fxgod.net/pdf/korea_nenmatu.pdf)

PDFレポート

【カルロスゴーンさんによって世界にばれだす  
日本の役人たちの作る腐った司法システム、について考える！】

（ホリエモンの動画も）

⇒ [http://fxgod.net/pdf/carlos\\_shihou.pdf](http://fxgod.net/pdf/carlos_shihou.pdf)

(写真付き PDF)

【韓国に着いたら空港でバレリーナが踊っていた】  
【台湾の空港では「怪しいロボット」が働いていた】  
⇒ [http://fxgod.net/pdf/korea\\_taiwan.pdf](http://fxgod.net/pdf/korea_taiwan.pdf)

PDFレポート【アメリカ「GAFA」 対 中国「BATH」  
の恐るべき戦い、について考える！】  
⇒ [http://fxgod.net/pdf/gafa\\_bath.pdf](http://fxgod.net/pdf/gafa_bath.pdf)

PDFレポート  
【最近アメリカの大金持ちたちは  
100ドル札と金を備蓄しだしてる！？】  
⇒ [http://fxgod.net/pdf/us\\_rich\\_100dollar.pdf](http://fxgod.net/pdf/us_rich_100dollar.pdf)

### 写真付き PDF)

【韓国に着いたら空港でバレリーナが踊っていた】  
【台湾の空港では「怪しいロボット」が働いていた】  
⇒ [http://fxgod.net/pdf/korea\\_taiwan.pdf](http://fxgod.net/pdf/korea_taiwan.pdf)

### 年末の PDF レポート！

【金小売り価格がグラム 5 8 7 7 円の  
「40年ぶりの高値」を 年末につけた意味、について考える！】  
⇒ [http://fxgod.net/pdf/gold\\_2019high.pdf](http://fxgod.net/pdf/gold_2019high.pdf)

### PDF レポート

【副島隆彦先生の新刊  
「全体主義（トータリタリアニズム）の中国が  
アメリカを打ち倒す—ディストピアに向かう世界」  
から考える！】  
⇒ [http://fxgod.net/pdf/soejima\\_distopia.pdf](http://fxgod.net/pdf/soejima_distopia.pdf)

### PDFレポート

【FXもネットビジネスも「時間の配分」を工夫することで  
収益が10倍変わるっぽいという話】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/fx\\_timeshare.pdf](http://fxgod.net/pdf/fx_timeshare.pdf)

### PDFレポート

【最近の日本の20代、30代、40代、50代は  
価値観が全然違う！？】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/japan\\_sedai.pdf](http://fxgod.net/pdf/japan_sedai.pdf)

### PDFレポート

【アメリカのミレニアル世代は年収3000万円でも  
米と豆食べている？】ことから考える！

⇒ [http://fxgod.net/pdf/us\\_millennial.pdf](http://fxgod.net/pdf/us_millennial.pdf)

(写真29枚) 【台湾の温泉街ジャオシーは  
ただただ素晴らしい】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/taiwan\\_jaoxi.pdf](http://fxgod.net/pdf/taiwan_jaoxi.pdf)

PDFレポート【2019年は結局「負けないこと」を徹底した人が  
資産を増やした、  
という話】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/2019\\_makenai.pdf](http://fxgod.net/pdf/2019_makenai.pdf)

PDFレポート

【「聖なる夜」が「性なる夜」になってしまう日本文化の奥深さ】  
について 真面目にクリスマスイブに考える！

[http://fxgod.net/pdf/jp\\_xmas.pdf](http://fxgod.net/pdf/jp_xmas.pdf)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDFレポート

【「金ゴールドを買う人が増えた2019年」から  
2020年代について考える！】

[http://fxgod.net/pdf/gold2019\\_2020.pdf](http://fxgod.net/pdf/gold2019_2020.pdf)

PDF レポート

【イギリスのボリスジョンソン首相の勝利の本当の意味と  
「米英の諜報機関をめぐる本当の裏側の近代史」とは？】

[http://fxgod.net/pdf/boris\\_win.pdf](http://fxgod.net/pdf/boris_win.pdf)

PDF レポート

【南国でイスラムのマレーシアではクリスマスが盛り上がってる！？】

(写真付き)

[http://fxgod.net/pdf/malay\\_xmas.pdf](http://fxgod.net/pdf/malay_xmas.pdf)

PDF レポート

【中国のハイテク企業アリババ・テンセントのすごさと怖さ】

(銀行消滅)

[http://fxgod.net/pdf/alibaba\\_tencent.pdf](http://fxgod.net/pdf/alibaba_tencent.pdf)



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【クリスマスプレゼント動画】

「トレードにおける聖杯を伝授！」が  
山之内さんから届きました！

⇒ <https://vimeo.com/307415558/f51027d16c>

＜対談音声＞

PART 6

【「超有料級」の対談音声（相関性トレードについて）  
を公開します！】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/3448641/kakumei2/>

## PART 5

【音声 MP3♪「僕はチャートに恋焦がれている！」】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/3448641/kakumei1/>

## PART 4

音声 MP3♪【「ポジポジ病」を克服して  
「負けなくなった」生徒さんたち】

⇒ [http://fxgod.net/onsei/yamanouchi\\_10oku4.mp3](http://fxgod.net/onsei/yamanouchi_10oku4.mp3)

## PART 3

音声 MP3 ♪【どのようなときに山之内はポジションを  
撤退・決済するのか？】

⇒ [http://fxgod.net/onsei/yamanouchi\\_10oku3.mp3](http://fxgod.net/onsei/yamanouchi_10oku3.mp3)

## PART 2

音声 MP3 ♪【借金 1000 万円から 12 年かけて  
資産 10 億超えに這い上がった方法論とは？】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/3448641/10oku2/>

## PART 1

音声 MP3 【「資産数十億円になって変わったこととは？」】

⇒ [http://fxgod.net/onsei/yamanouchi\\_10oku1.mp3](http://fxgod.net/onsei/yamanouchi_10oku1.mp3)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※以下は2019年にまとめた記事で  
2019年終わり時点で「めっちゃ増えました」という声を  
結構読者さんからいただいたものですね～

私的企業と公的部門がズブズブ癒着してる  
共産主義国家の日本の株だと利益率がそこまで高まりづらいかもですが

日本以外の私的企業と公的部門をなるべく分離して  
資本主義を導入しだしてるアジアなどの国の株式市場で  
かなりの優位性が発揮できてます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【億万長者バフェット学】

(全項目、上から読んで全項目を考慮して  
負けない投資を戦略立てる。)

PDF【資産10兆バフェットは大衆投資家が暴落で焦ってるところで買う】

(億万長者バフェット学)

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory1.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory1.pdf)

PDFレポート

【億万長者のバフェットが避けたがる  
「コモディティ型企業」について知る！】

(億万長者バフェット学)

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory2.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory2.pdf)

PDFレポート【投資したら損する「コモディティ企業」を  
バフェットが見分ける「7つの基準」とは？】

(億万長者バフェット学)

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory3.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory3.pdf)

PDF【バフェットが愛する「消費者独占型の企業」とは何か？】

(億万長者バフェット学)

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory4.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory4.pdf)

PDFレポート

【バフェットが「消費者独占型企業」を見極める  
3つの方法とは？】

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory5.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory5.pdf)

PDFレポート

【バフェットが株を仕込む際に見る「ROE 15%基準」とは？】

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory6.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory6.pdf)

PDFレポート

【「バフェットが消費者独占型企業を  
割安かどうか見抜く計算式」とは？(億万長者バフェット学)】

[http://fxgod.net/pdf/buffet\\_theory7.pdf](http://fxgod.net/pdf/buffet_theory7.pdf)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

=====**編集後記**=====

さてさて、昨日ですがカルロスゴーンについての

副島隆彦先生の記事なんかを扱いましたが

すごい反響でした。

私も韓国から日本の情報をネット経由で見るとだけど

もう最近はほとんどまともな、少なくとも

近代デモクラシーの思想とか考え方にちゃんと立脚した記事

って検索でもツイッターやフェイスブックのSNSでも

ネットニュースでも日本語では読めなくなっちゃってますね。

そんな中で副島先生の記事なんかは貴重だったんだろうと思います。

結局情報って 私たちは主に言語を元にとってるわけですが

日本語の情報を全部いじくられたら、操作されたら

そこって終わりなわけで

「情報を取るためのリスクヘッジとしての語学」

みたいのがすごい重要になってきちゃってると思います。

ちなみに最近だとブルームバーグに取って代わろうとしてるのが

ロイターでして、

例えば投資家だと ガチの人はブルームバーグ端末って言う

年間何百万円の端末使ってそれでトレーディングとか投資してたり

する人もファンドで多いのですが

最近はロイターがブルームバーグ端末に代わる



ロイター端末ってのを出してこれが年間100万円~200万円台で

いけちゃうから ブルームバーグ端末が焦ってる構図があるんですが

そのロイターなんかは最近ゴーンの会見とか

昨日1月15日とかに World=世界ニュースのトップで扱ってましたね。

私たち日本人がよく昔

「北朝鮮から脱北してきた脱北者」のニュースを見たものだけど

それに近い感じで「日本の司法システムから亡命してきた

英雄のゴーン」みたいな扱いですよ。

最近ロイターなんかでも多くの記事が日本語で読めるから

金融関係のニュースは充実してるので

日本語圏のニュースに疑問感じる人は

ロイター読むと良いです。

以前はブルームバーグでしたが、

最近はロイター強いですね。



**「先進国の中央銀行がどうも QE ジャブジャブマネーの玉切れである」**



さて、それで今日はざり

**「先進国の中央銀行がどうも QE ジャブジャブマネーの玉切れである」**

みたいな話も考えたいと思います。

ちなみに最近は長期で見ると

もう政府当局者の動きが超重要になってきておりまして、

相場なんかは需給で上下しないんですね。

完全に QE とかのマネーがあってそのマネーが

株式市場に入って、それで高値が演出されるようになってる。

だから9月くらいに「トランプ大統領が QE 4 を実質開始したから

あの人は選挙前に NY ダウの高値ほしがっている」

って書いたけど、それで実際の数値である

短期の28000ドルも書いたけど

ほんとその通りになってますが

あれってのはもう事前に仕組んでるんですよ。

ちなみに「政府当局者がどのように事前に仕組んでるかの重要性」

は私は13億円株で稼いだ投資家がいる、

同じ早稲田なんだけど彼がよく言っていて

簡単に言うとリーマンショック後の市場は出来レースだと。

やはり大きくは政府当局者の意図で相場が動いて「しまってる」

ってというのは彼も言っていました。

彼はそれを知って大きく10億円以上稼いだんだけども。

それなのでこの辺を知っておくのは大事ですよ。

それで何よりも今注目なのが

**「中央銀行は玉があるか」**

です。

**要するに日経平均だって、NYダウだって、**

**それは為替のドル円などに相関するけど**

**結局「玉」があってそれで買い上げられてるわけです。**

このアメリカや日本や欧州の中銀たちの「玉があるかないかの事情」

がやっぱり大事ですね。

それで実は今年の2020年ですが

よく中央銀行自身がアナウンスしているのが

「もう私たち中央銀行群は次に金融危機が起きたとき、

そのときに 危機を十分に緩和できるだけの金融資源を持っていない」

っていうことですよね。

ちなみに、最近読み始めた読者さんのために

分かりやすく説明しますが、

私がよく書く「ジャブジャブマネー」とか「QE」とか

「金融緩和」とか

同じ意味です。

基本的にはリーマンショック以降もう機能不全になったのが

アメリカの債券市場なんだけど

ここでそれを放置したら 米国債の債券市場が崩れて

ドルが終わっちゃいますから

なんとか中銀群でジャブジャブにマネーを刷って

債券の買い支えをしてきて

2020年に突入したってのが本当の世界の金融ストーリーですよ。

そこで中銀たちが自分たちでマネーを作るんだけど

そこでそのマネーがジャブジャブになるんですが

これがQEであって金融緩和であるけど

要するに中銀とかマスコミは「大衆にこんな単純な構造を知られたくない」

ですから、

そこで「QE」とか「金融緩和」とか難しい言葉使うんです。

だから分かりやすく、

「ジャブジャブマネー」でいいじゃないかっていうのが

副島先生なんか言ってる事なんだけども。

それでイギリスの中央銀行であるカーニー総裁が

1月8日にですね、

FTのインタビューで

「もう次の大きな不況である金融危機が起きたら、

QE や利下げなどのジャブジャブマネー作って買い支えるという

中央銀行 = 中銀の政策では対処できないだろう。

トランプが主張するマイナス金利はやるべきじゃないし、

これからもう中央銀行がジャブジャブマネーができないのだから、



先進諸国政府による 大規模な財政出動が必要だ」

っていうことを言ったんですね。

ここで

「大規模な財政出動」

ってのは何だろう？という

これは日本でも政治家がよく言ってると思いますが

いわゆる 「MMT」 のことを言ってます。

そこで（根拠自体が怪しい）地球温暖化ってのがあって

その温暖化対策ってのがあるけど今回の MMT は

この温暖化対策のための MMT（債券発行）

みたいな感じで進めたいってのがカーニーの言った内容の

本当の意味ですよ。

だからイギリス中央銀行のカーニー総裁が  
事実上、

「もう中央銀行が2008年以降リーマンショック以降

ジャブジャブマネーで買い支えて12年になったけど

そろそろ限界・・・」

と認めたわけです。

私は早く米ドル覇権が崩壊すればよいと思ってる論者だから

彼の緑の債券発行によるMMTは反対ですが

ただ彼が言ってる「中銀のマネーがそろそろ数年で限界になる」

はどれも正しい。

それでカーニーからしたら

「先進国政府よ、緑の債券発行とかの MMT をやって

助けてくれ」という意味だ。

ちなみに、イギリスのカーニー中央銀行総裁は

先進国のアメリカや日本や欧州の中銀総裁と比べれば

比較的「正直」なんですけど

このカーニー中央銀行総裁は

「もうドルの基軸性の崩壊とかアメリカの覇権喪失は

避けられない」

ってことを結構以前から言っていた人なんですね。

「だからその代わりに ドル崩壊後、

どういう体制を取ればよいか。私たちエスタブは

ドル崩壊後でもどう生き残っていくか」

という内容を中央銀行総裁として、発言してきた人なんです。

だから

イギリスの中央銀行総裁であるカーニーは  
ある意味正直なんです。

それでカーニーは

「これからのドル崩壊後の体制のために、

新興諸国を代表する 人民元がドルに対抗する基軸通貨になっていく」

なんて話もしていて、

基軸通貨は今はドルなんだけど次は人民元だ

という基軸通貨の2極化についても発言してきた。

2019年の8月にはさらに

IMFでSDRってのがあって、それは主要国の通貨だったり

金地金だったりを加重平均した「暗号通貨」みたいなものなんだけど

この構想はフェイスブックのリブラとかがそうでしたが

そういったSDRっぽいものを作って

ドルに代わる新しい通貨にすればよいのではないか？

ということも カーニー英中銀総裁は

中央銀行家たちの年次総会で、ジャクソンホールで発言した。

ただこれはイギリス以外の中央銀行総裁には

無視されたわけでした

それは当然で、他の先進国の中央銀行総裁は

日銀の黒田なんかもそうですが

「いかにドルを延命するか」を考えてるのですから

そこで「ドルは崩壊するのは待ったなしだから

SDR 作って対処しよう」

なんてイギリスのカーニー中央銀行総裁は無視された

わけですね。

日本のエスタブ層や官僚なんかは

「なんとしてでも ドルを延命させたい」と考えるけど

一方もうエスタブ層でも意見が割れていて

イギリスのエスタブ層は

「もうアメリカの帝国覇権崩壊は避けられないから

その現実を甘受した上で、

如何に私たちエスタブ層がその後でも影響力を行使できるか考えよう」

となってきた。

だからエスタブ層、官僚たちの間でも意見が割れだしているってのが

2020年に見られる新しい傾向です。

だから、

「なんでアメリカや日本や欧州の中銀総裁たちが

ドル延命のための発言をしないのに

イギリスの中銀総裁だけはもうドルの危機を

言ってしまうてるのか？」

っていう疑問はあると思いますが

これはもう イギリスなんかは中国と AIIB とかで

くっついてますが



「次、このまま2020年代に想定される

アメリカの債券市場崩壊が起きて対策しないと

イギリスは本格的に覇権を失うからそれに対策しないといけない」

というある種のエスタブ側の焦り、ですよね。

エスタブとしてはトランプが弱かった以前は

「米ドル覇権をなんとか維持していく」にこだわったけど

最近はどうもそれが無理だ、となって代替案である

「米ドル覇権崩壊が近いうちにきたとしてもなんとか

権力は維持していきたい」という方策に転換してるように見えます。

それでトランプなんかは

債券市場の崩壊を2020年代には誘導して

「イギリスも道連れにしてやる」

という本音ですけども

カーニー中銀総裁はあがいている。



イギリスカーニー中銀総裁は

MMTをしてなんとか アメリカの債券市場を維持したい



それでカーニー中銀総裁は

2019年の10月には

「これから地球温暖化によって突然の金融崩壊が起きる」

なんていって、

それで他の先進国のメディアに叩かれていたんだけど

これは実は金融事情に通じる人たちはみんな

「本当の意味」を理解している。

その本当の意味とは

今アメリカでは シェール事業なんかの会社たちが

巨額の社債を発行して

それで社債が取引されるジャンク債の市場で

資金調達して「なんとかシェール会社を倒産寸前で持たせてる」

のです。

が、ここで世界不況がやってきたら石油ガス価格の安値に

なります。

ちなみに石油の WTI は相関として これが下がれば

円高になりやすいし上がると円安になりやすいという相関ありますね。

それでここでもし石油ガスが安値になると

ここでシェールの社債が連鎖破綻して

そこで「シェール発の債券市場崩れ＝金融危機」の可能性が

考えられるのだけど

これを地球温暖化にこじつけて無理やり語ったのが

このカーニーの発言です。

ちなみにカーニーとしては

「地球温暖化対策を各国はして、そして「緑の国債」

を発行して まさに 今流行させてる 「MMT 理論の赤字国債」

でそして財政出動をして、

その資金をきたるべき金融危機の穴埋めに使おう」

ということを言いたいわけですね。

だからここで分かったと思いますが

2019年くらいから

私のメルマガでも扱ってますが

「やたら MMT MMT うるさい人」が左派で増えてますよね？

マスコミなんかはやたら「MMT」と言い出した。

実はこれは種明かしで、憲法21条言論表現の自由を元に

書くならば

簡単に私が説明しちゃうけど

「中央銀行のジャブジャブマネーのQE だけでは

先進諸国、特にアメリカの債券市場を買い支えることが

玉切れで困難になってきてしまったから、

次は政府の財政出動の MMT 理論を元に

温暖化対策や貧困対策という口実で緑の債券を発行して

そのマネーでなんとか アメリカの債券市場を買い支えよう！」

ってということなんです。

だからよく日本の「識者や政治家」がやたら MMT について

言い出してるけど

あれってのは本当はおそらくですが、

というか相当高い確率で後ろからマネーが出ていて

「お願いだからこれから アメリカの金融市場買い支えするために

アベノミクスとかドラギノミクスとかの中銀主体の

ジャブジャブマネーでは

足りなくなっていて トランプのQE 4でも長く続かないから

MMTの必要性をプロパガンダして」

とでも言われてるんでしょう。

だからよく MMTのことをちょっとでも記事で見た人は

「MMTで政府が赤字国債を発行して貧乏人にマネーを

配布すればハッピーだ」



みたいな内容が書かれてるけど

そこに疑問を持つ。

たぶん 社会経験がある人は「そんなうまい話あるか」

と思うけど、その感性が正しいんです。

実際はそのマネーは貧困層の救済のためという「口実」であって

あとは「温暖化対策のため」という「口実」であって

アベノミクスのとくと同じで

その ジャブジャブに赤字国債で発行されたマネーは

アメリカの債券市場の買い支えのために使われるだけ

なんですね。

この本質を日本語で書いてるのは

田中宇先生とか副島先生とかの一部であって

もうそれくらい日本の情報は統制されちゃってる。

それでイギリス中央銀行総裁のカーニー総裁としては

とりあえず中銀の QE だけではもう限界が見えてきてるから

そこで QE 4 やってもマイナス金利やっても数年しか

買い支えできないですから

そうなるといよいよ アメリカの債券市場が崩壊しちゃって

自分たちエスタブも本格的に追い込まれるから、

そこで 地球温暖化対策のために

「緑の債券」を発行させて、それを金融市場の

買い支えの玉にしたいってことなんですね。

だからカーニーなんかは この辺を見ると

「アメリカのドルの崩壊の危険性を正直に伝えたいって

中銀政策だけではそのまま崩壊が早まってしまうから

そこで緑の債券でさらに延命しよう」

という論理を進めたい人なのかもしれません。

だから彼は本音ではドル延命論者です。

ただ実のところ、トランプだとかは とつとと

米ドル崩壊させて、米国債券市場をデフォルトさせたいですから

彼はちゃんと米国債デフォルトすればよいという内容を

選挙前に発言してるんですが

そこで

「延命なんて必要ねーよ。バブル作って

それで再選されて、任期終わる2024年前後に

崩壊させればいいんだ。

俺が選挙前に挨拶にいった

キッシンジャー博士はそういう思想なのだ」

とても本音では思ってるんでしょう。

だからその辺の「先進国市場を延命させるかどうか」

の話でカーニーとしては 緑の債券で延命させたいという

話なんでしょう。

その延命してる最中に中国とくっついて

先進国バブルを軟着陸させてイギリス諜報はなんとか権威を維持したい

という思惑は感じられる。

イギリスの諜報機関内でもおそらく分裂が出てきてますが

彼らも日本の官僚と同じで既得権益を保持するのに必死だ。

ちなみに最近ではトランプ周りのFRBの態度を見ると

もうアメリカのエスタブ金融界でさえも

最後まで QE 4 なり利下げでバブル膨張させて、

それで無策のうちにアメリカの債券市場が

崩壊する結果になるのかまわない

と考える節があつて

エスタブ層の多くが

トランプ大統領に妥協して同意しつつある。

ここで「金融総本山」であるイギリスのカーニーは

「おまえら、そんなことばかりやっていて QE だけで

乗り切ろうなんて無理だ。

緑の債券なりでもっと延命させないと」

という感じなわけです。

それでどうも、今分かることがあって

ドルの債券金融システムが崩壊するのは不可避であって

そこで

「1 長く延命して既存の先進国が世界を主導するのか

2 早く崩壊させて

中国ロシアなどに世界覇権を渡して新しい世界経済システムで

経済成長を作るか」

の本当の世界のトップ層の論争が見えるんですね。

ちなみに以前のFRBのイエレンだったり

欧州ECBのドラギ総裁なんかはドル防衛論者ですが

2020年1月の元旦3日～5日あたりから行われた

「アメリカ経済学会」の年次総会で

「そろそろ中央銀行の玉がなくなってきて危ない」

というカーニーと同じ発言をしてるんですね。

それでイエレンとしては「強いドル」を守りたい人でしたから

そこで今の「不動産担保債券がまたサブプライムのように

バブル化する」



のを批判してます。

これはトランプへの批判でもある。トランプがバブルを作ってるから。

既に実はこのアメリカの不動産担保債券も

サブプライム問題で以前話題になったけど

その後またこの発行額が急増してるってのが現実で

この巨額の債券が発行されてる現状で金利がちょっとでも

あがると利払いが急増して

やっぱりアメリカの債券市場は崩壊しちゃう。

だから今後はずっとアメリカはもう金利を上げられない状態

になってきてるんですが

その現状を作ったのはトランプ大統領です。

それでイエレンが言ったのは

「低金利が続いたら投資家は高利回りを求めるようになって

またもっと危険な不動産担保債券を買うようになって

債券バブルの崩壊がとんでもないことになる」

というジレンマについてだったんですが

だからイエレンは「ドル防衛側」としては真つ当なことを

言ってるわけですが、

同じくイエレンはカーニーと同じで「ドル防衛側」なので

最近では「本音ではドル崩壊論者」が強いため、

無視されてます。

だからドル防衛勢力としては、

今のアメリカ債券市場の危険性を正直に言って、

なんとかドルが延命するように動いて、

なおかつ、緑の債券なんかで赤字国債を発行して

中銀が QE できない分の穴埋めをしてなんとか

強いドル、が続くようにしたいけど、

一方トランプのような「本音ではドル崩壊論者」は

これらが無視して、嘘を言い続けて、

今もやってますが QE でジャブジャブマネーで

株を吊り上げて、バブルを拡大させて

そしてバブルは必ず崩壊するんですが

そこで「必ず」崩壊するバブルを作って崩壊させよう

としてるわけですね。

だからどうも裏側では、

「ドル崩壊論者 と ドル防衛論者」の戦いつてのが

顕在化してきている。

ちなみに私は各国の官僚機構の権力源泉がまさに強いドルで

米軍であるのを知ってるので

実はトランプが嘘を言ってるのを理解したうえで

彼が債券市場崩壊に向けてバブル作成に動いてるので

トランプ支持者です。

ちなみにこの思想がアメリカのリバータリアンの本音の思想です。



無視されるイギリス中央銀行総裁のカーニーと

イエレン前 FRB 議長。



それで最近の金融界は以前はドル防衛側が強かったんだけど

最近はもうトランプとかの「本音では」ドル崩壊論者が圧倒的に

強くなっており、

そこでもう バブルを作りまくっている。

アメリカの社債総発行額はリーマンショック前を越えて史上最高

となってしまうてる。

それで

「バブルを意図的に作って最終的に崩壊させたいトランプ大統領」

が、

昨秋に私のメルマガで頻繁に扱ったけど

実質のQE4を開始してるんですね。

~~~~~

PDFレポート

【実はアメリカは「実質のQE4」を9月から「こっそり」再開している、
という話】

⇒ http://fxgod.net/pdf/qe4_omo.pdf

~~~~~

それで数ヶ月前書いたように「トランプの意図通りバブルが作成されて

NY ダウは最高更新」となりました。

この辺の裏を分析して知っていると、

投資で負けずに利益出すのは大変楽になる。

それでこれからもアメリカは2020年も

トランプ側のパウエルFRB議長が「実質のQE 4」(OMO)を

続けていくでしょうが

もう既にその巨額資金は去年後半から

金融システムに注入されており、

その資金が新たに発行される債券を買い支える

という構図になってますね。



それでも QE 4 とか実際は、やっちゃってますから

もう実はリーマンショック前よりさらに不健全な状態。

本当はドルが延命するならイエレンがやったように利上げして

軟着陸できるようにするべきだったけど

トランプがそれを壊して、無理やり「バブル状態」に戻した。

それでここ最近ではバーナンキ元 FRB 議長なんかが出てきたんだけど

もうドル防衛者たちが頑張っていて

最近上記のカーニーなんか

「もう中央銀行がやってきた QE の玉が切れてきた」なんて

発言したわけですが

そこでバーナンキ元 FRB 議長は

「大丈夫大丈夫、玉はもっとある！もっとジャブジャブマネーで

買い支えられるよ！」

と言ってる。

バーナンキは最近、上記のアメリカ経済学会の年次総会で

演説して

彼は

「これからもっと QE と金利操作を再開して

大体合計で 3% の利下げと同じ効果を持たせられる。

そしてFRBはマイナス金利をやればよい」

とも言った。

ちなみに、金融危機が起きたときなんですが

その十分な救済策として必要な利下げ幅は？

というと大体5%以上は必要といわれています。

今のアメリカの短期金利が1.5%しかないんですが

だとすると金利をゼロにまで下げても

1.5%の効果しかないので、

そこで金融危機対策としては足りないのですが

だからイギリスの中央銀行総裁は

「世界の中央銀行はそろそろ玉がない」

と言った。

が、そこでバーナンキなんかは

「QE と金利操作をすれば 3%の利下げに相当するし

なんとか金融危機は乗り越えられる」なんて

言ってるわけですが

とりあえずこの発言で喜ぶのは QE を拡大させたい

トランプだから

バーナンキなんかは本当は、ドル崩壊論者かもしれない。

それで、重要なのは上記でカーニーイギリス中央銀行総裁が

言ってる

「このまま QE とかマイナス金利とか続けたら

本当に玉が切れてドルが崩壊しちゃうぞ」

ってというのは本当のことであって

そういう意味ではカーニーが正しくてバーナンキは間違ってる

んですね。

ただ私から見ると

カーニーは ちゃんと正しいことを言って

そこで「ドルを防衛しましょう」という人ですけど

バーナンキは「このまま QE やっても利下げしても

ドル防衛などできないのを知っていて、

それでもそれを主張してる

バブルを作って崩壊させたいトランプに合わせる確信犯」

にも見えます。

まあそれで、それぞれの中銀などのトップ層でも

もう最近は意見が割れてきていて

ドル崩壊論者とドル防衛論者と見分けがつきづらくなってきてる

のですが

いずれにしても 正しいのはカーニーの主張なんですね。

(私はその後の彼の MMT 理論を支持しないけど)

イギリス中央銀行総裁のカーニーが言う

「もうそろそろ先進国の金融システムは危機なのだ」

という主張は正しいんです。

それでカーニーはその危機をなんとかするため

アメリカ帝国を維持するために

緑の債券を発行して そして各国に赤字国債を刷らせて

アメリカの債券市場を維持させようとしている

わけです。

ただ私ゆうは アメリカ帝国覇権なんて崩れてしまえ

という本音でトランプ大統領と実は思想が似てるので

だから カーニーが本当のことを言っていたとしても

ドル防衛論者の彼の支持はしないわけですね。

そういう立場です。

が、マスコミの場合は？というところでも上記のような

複雑性を理解していない記者が大半ですから

だから彼らは



「金融相場は過去最高値を更新しているから

みなさん先進国株を買いましょう」

とやってるわけですが、もはや見る価値もない

というのが私が考えてることです。

今の最高値ってのは 「アメリカの市場を

近年中で崩壊させたいトランプ大統領が

無理やりバブル化してそれで達成されてるものであって

そのQE 4なりでバブルを作っているトランプ大統領は

そもそも NY ダウの長期の高値を短期中期でほしがってるが

長期で維持するつもりはない」

のですね。

アメリカの景気は実際は悪いですし

需要が強くて相場が上がってるわけではないわけです。

だから正確に言うならば

「ジャブジャブマネーが入って先進国の株式相場が上がってるだけ」

なんだけど

だから短期中期では上手なトレーダーならありだけど

長期だと強烈な危険性をはらむ、ってのが正しい認識かと

思う。

マスコミの場合はそもそもそういう考察もないで

ただただ 最高値になったから買いましょう、

とかやってるから かなり言論としては害悪だ、と私は思います。

仮想通貨と同じで

「そのとき」が来たら大多数がなんのリスクヘッジもしていないから

巻き込まれて資産失いますから。

逆に、今の株式の上げは トランプの「意図的なバブル生成」

であって、 バブルは中期～長期的には破綻していく

っていうことを織り込んだ人ならリスクヘッジの戦略を

取れますし、それはそれで良いと思います。

いずれにしても私はイギリス中央銀行総裁のカーニーの

緑の債券とかの MMT を推進する部分は支持はしませんが

けども、彼が言うドルやアメリカ覇権の終わりが近づいてる

ってのは事実だと考えてますよね。

まあだから私は株なんかだと長期保有の大事さを書きますが

実のところ NY ダウなんかは トランプが再選したいから

QE 使って 無理やり バブル作って吊り上げてるのが実情ですが

そこでトレーディングなどで短期～中期を狙うのはまだ

分かりますが

長期で米国株保有して配当金で・・・みたいな

戦略は5年～10年の単位で考えると

「甘い」と考えてるってことです。

おそらくあまり15年とか20年経過したら

米国株長期保有は利率を得られない確率が高まっているから

だからやはり長期保有なんかは

アメリカからのQEマネーがなるべく抑えられてる  
入っていない国の

今は勢いが微妙な株で

なおかつ 資金を 「バブル崩壊前」と「バブル崩壊後」に

分けて、キャッシュも残しつつ、

そこでバブル崩壊後も買い付けられるようなキャッシュは

残しておくのが今の2020年の取る戦略の一つなのかな～

とは考えてますね。

あとはその株ヘッジとして考えられるのは

金ゴールドあたりであろうというのが私が今見てる部分です。



**イランが米軍基地爆撃した後**

**「おかしな動きをした NY ダウと金ゴールド」**

**の裏のマネーの動きとは？**



それでここで 「変な動き」が1月観察されたわけですが

今日はその辺もやはり考える必要があるので

最後に書きたいんだけど

それがイランが米軍基地を攻撃して

マスコミなんかには第3次世界大戦がプロパガンダされた。

が、これはプロパガンダである、ってのは

書きました。

PDFレポート

【年始からイランと「うまくやった」トランプ大統領】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/iran\\_trump2020.pdf](http://fxgod.net/pdf/iran_trump2020.pdf)

それでこういう政治事象と経済、金融は連動するのですが

一応そこのどういった連動があったか？

を復習しておきたいと思います。

この辺が分かったらこれからまた同じようなことがあったとき

冷静に対処できて振り回されなくなるから。



それです、イランが米軍基地を攻撃しまして、

1月7日～8日にかけて

一時的に株価が下がり

金相場が高騰した

という金融現象が見られました。

しかし、まだ米軍がイランに再度報復して、

世界大戦になるかもしれない、とマスコミが言ってる最中に

結果的にタイミング的には数時間早すぎる感じで

株価が反騰、

金相場が反落して暴落しはじめた

という事象が起こりましたよね。

これは金ドルとドル円は連動するから

ドル円ですと

「円高⇒円安」の動きとなった。

ちなみにこういう変な仕掛けの動きは

2020年代に頻繁に見られるようになるだろう

ってことも知っておきたいところです。

それで本来の市場の動きとすれば

アメリカ時間の1月8日の朝に トランプがイランを攻撃しない

と宣言してから、ツイートなどを彼がしましたが

その後から株の高騰とか金の反落が始まるなら

「自然」だったけど

もう今の相場はそういう動きはしないんですね。

トランプが「何の問題もない」って簡単なツイートしただけで

それで 株の反騰と金下落が始まったわけです。

この「数時間のズレ」ってのは何でしょう??

実はこれはこういう戦争とか地震なりの事象で

よく見られる現象なんですけど

とりあえず分かるのは「何かやらせがあるんだな」

ってことですよ?

少なくとも投資家たちが市場の需給で分析して

売買した結果ではないわけです。

エンタメでいうと M1 の優勝者が最初からどうも意図されたものではないか

と疑いがあるけど

これと同じで

だからテクニカルなどの分析ではこれ、当然読めませんよね。

これは中央銀行群が QE の資金を株式と

金相場に注入した当局によるやらせ的な「介入」

の結果として

株の反騰と、金の反落が起きたってだけなんですね。

ここが大事で、だからこの「数時間のズレ」について

田中宇先生が分析していたけど

これは「テクニカルなどで需給分析で市場が形成されてるように

当局が装ってるだけであって

実際は当局が自分らで市場コントロールしてるってのが

ばれてしまった」

という事象なんです。

その後、1月13日からドル高円安、人民元安の傾向になりまして

日銀がQEで作った資金がドルに転換されて

アメリカの金融システムに投入されて、

それでさらなる株高が演出されているって感じですよ。

だから最近の市場ってのはテクニカルとかの

需給分析で大きな動きが作られていないわけで

それよりは「当局がどのようなストーリーを作りたいか」

みたいな想定のほうが

儲けにつながっちゃうって感じです。

米中貿易戦争の和解の第1次調印が行われてるのも

これも株高の材料に使われるわけですが

現在はドル高になったから ドルの敵である金

は反落が進んでる。

だから短期的に今起きてることってのは

以前に書いてる

QE 資金で金先物が売られて反落し続ける展開ですよ。

ちなみにこういう金先物が QE なんかの資金で売り崩されるわけですが

今はもう金ゴールドは高くなってしまったけど

もう一段階、QE の資金で売り崩しが来るならば

ひょっとしたら 安く買いつけられるかもしれませんね。

それでイギリスの上層部ってのはずばり今は

ボリスジョンソン首相なんかの

EU 離脱を進める反エスタブ、

さらには中国ロシアなんかが新しく世界経済で台頭して

経済成長を引っ張っていくことを求める資本家側

が強くなってるわけですが

やはり上記のイギリス中央銀行のカーニーなんかは

イギリスのエスタブ層なんです。

イギリス諜報が過去アメリカの債券市場を作ったけど

それをもっと延命したい。

それでイギリスのエスタブ層は、今までの大英帝国以来の

覇権の黒幕としての権限をもっとこれから維持したい

のですが



だからカーニーのように

「そろそろアメリカの債券市場が危ないから

なんとか対策しよう」ということを正直に言い出している。

だからトランプ大統領やボリスジョンソン首相のように

無茶苦茶に 金融市場を荒らして

それでトランプ大統領なんかは自分でバブル作って

作ったバブルは必ず崩壊しますが

トランプの態度を看過しない、という態度だ。

そのバブル崩壊前に、ちゃんと主導権をイギリスが握って、

そして うまくバブルが崩壊してもなんとかなるように

「調整」をして、軟着陸できるようにして、

そしてイギリスの国債影響力をさらに維持していきたい

というのがおそらくカーニーたち、イギリスのエスタブ、

軍産官僚たちの思惑ですよ。

それでもう、ドル覇権主義者たち、ドル防衛勢力ってのは

アメリカでもトランプのやり方に不満を持っている。

あんなに好き勝手バブルを作って株価を高値更新なんて

やりまくっていたら

いつか それこそ日本のバブル崩壊のように

崩れますから

そこで アメリカ帝国覇権を維持したいアメリカのエスタブ層たちは

不満持ってるわけですね。

だからイギリス中銀のカーニーたちはそういう人たちを

結集して、そしてイギリスが最終的には

アメリカ崩壊後の多極世界で覇権が握れるように

誘導したいわけで

その辺の戦いです。

トランプ大統領は派手にバブル作って、数年後に崩壊させて

中国ロシアなんかに覇権を握らせて

それで新興国が経済を主導する体制にしたいのですが

まさに

「既存の先進国がなんとか強さを維持していく派」

(軍産官僚)

VS

「もう先進国の帝国覇権なんかどうでもいいから

バブル作って崩壊させて BRICS なんかに経済を主導させる派」

(反エスタブのトランプやボリスジョンソンなど)

という戦いになってきている。

それで長期の2020年代の大きな動きを想定すると、

とりあえず 今はこの QE なんかを作ってマイナス金利にしてしまっ

ジャブジャブマネーをもっと進めて

そして壮大にバブル崩壊させたいトランプたち資本側の勢力が

強いですから、

となると中央銀行のマイナス金利化、

あとは中央銀行の「玉切れ状態」と

その後の無秩序な金融バブルの大崩壊、

ドルの基軸性の喪失、

金地金の長期的な上昇、暴騰、

中国ロシアなど新興国の圧倒的台頭、（これは1年ごとに

徐々に進む）

あとは米ドルを使わない 中国ロシアなどの

人民元やルーブルなどの決済システムの構築

が長期的に進んでいく可能性は高いですね。

まあだからもう先進国の時代は終わっていくな～

って感じになってきてまして、

先進国はMMTなんかでなんとか延命したいエスタブ層も

おりますが

トランプたち アメリカ帝国覇権を放棄するという

思想の人たちが相変わらず強いですから

結局 中国ロシア、あとは北朝鮮とか韓国の朝鮮半島

あとは東南アジア、あとは中東、あとは南米、

その後アフリカなど

が一気に経済としては

2020年代後半から2050年代、2060年代と

長期で強くなる時代に入っていきますね。

その準備がされてるのが2020年代前半で

本格的にその流れが開始するのが

2025年前後かもしれない。

こういう覇権転換の

大きな流れが現状発生していると分析できますんで

その上で「投資対象国」も「学ぶ言語も」

「住む国も」自分たちで私たちは選ぶ時代になっていきそうです。

ちなみに最近の日本の若者なんかは

結構この動きに潜在的に気づいていて

最近は芸能人を見るとおじさんたちは

アメリカや欧州に留学なりで行きたがるけど

日本も若者は中国や韓国なんかのアジアに

留学行く人増えてますよね。

だからよく20代前半あたりの

若者のほうが見えてるといえるかもしれない。



それで「長期で」投資などを考える場合、

今までであれば先進国に長期投資するなんて人が多かったけど

それはもう通用しなくなるのは明白で

これからは長期で投資するならばハーバード大学基金なんかも

ポートフォリオがそうなってきたけど

やはり資本主義を新しく導入してこれから成長していく

若者が多い新興国でしょう。

これらの国々にも 先進国のQE 資金は入ってしまったので

先進国の、アメリカの債券市場が軟着陸ではなく

墜落した場合は

20%とか30%とかの下落という大きな影響を

これらの国々の株式市場も受けるでしょうが

やはり需要があるから先進国よりは

人口ピラミッドにおいて若者が多い国は

回復が早いことは想定される。

この辺の大きな転換が起こるのが2020年代の中盤～後半

であるかもしれない。

ただ 先進国はQE 資金に見られるように

バブルを作り上げていきますから

まさにバブル崩壊前の日本がすごい元気だったのと一緒で

「そのとき」までは先進国はすごい元気を装っていくでしょうから

ここで短期中期、そして長期で分けて考えるのは大事ですね。

そして歴史を見れば分かりますが、

**「経済的、金融的に勝者と敗者を分ける瞬間」**

ってのがあって

それが日本だとバブル崩壊前後であったし

あとは最近だとリーマンショック時がまさにそうでしたが

**私たちの富を分けるのは**

**この10年とか20年に一度あるような**

**大きな事象における対処であったりするので**

こればかりは長期視点を持たないと対策できませんが、

もう今からそれを想定してうまく振舞えるように

準備しておくのは大事ですね。

まだ市場は QE ジャブジャブマネーがあるので

なんだかんだ楽観が 2020 年代の前半は続くかもしれませんが

一気に 形勢が変わる事態が 2020 年代中盤あたりに想定できるので

それにも準備しておいて、

長い視点で資産構築を考えたいものです。

それでおそらく 10 年後とか 20 年後に

短期中期でしか考えなかった人と

長期的に想定して対策してきた人で

一気に富の格差が分かります。

暴落がいつ来るかは

GAFANARIの大株主であったりする

銀行家などの権力者以外は誰も分かりません。  
(かれらが債券市場の買い支えを中断するかどうかの  
金融政策を決める本当のマーケットメイカーだから)

しかしながら暴落が来てもなんとかなるように

対策するのは誰でもできます。

それは雨が明日降るかどうかは誰も100%予測できませんが

明日のために折りたたみ傘を買って

念のため、カバンに折りたたみ傘を入れておくことは

誰にでも出来るわけです。

もしくは商売が自由な国ならば

雨が明日降るかは分からないけど、

雨が降ったら傘が駅前で売れるから傘のストックを増やして

その時 傘を売って儲ける準備をすることはできます。

こんなちょっとしたことが人生変えることってのが

すごい多くて

それは負けなための思考です。

それでは！

ゆう

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**NEW!PDFレポート**

**【「ソフトバンクの孫正義氏」と**

**「アリババ」と「ブロックチェーン」について考える!】**

⇒ [http://fxgod.net/pdf/son\\_alibaba.pdf](http://fxgod.net/pdf/son_alibaba.pdf)

**PDFレポート**

**【ついに「金ゴールドが1グラム6000円」を超えた! ?】**

⇒ [http://fxgod.net/pdf/gold\\_6000.pdf](http://fxgod.net/pdf/gold_6000.pdf)

PDF レポート (写真 2 3 枚) 年末の韓国ソウルの様子！  
& 氷点下の中でタクシーが  
見つからなかった話

⇒ [http://fxgod.net/pdf/korea\\_nenmatu.pdf](http://fxgod.net/pdf/korea_nenmatu.pdf)

PDF レポート

【カルロスゴーンさんによって世界にばれだす  
日本の役人たちの作る腐った司法システム、について考える！】  
(ホリエモンの動画も)

⇒ [http://fxgod.net/pdf/carlos\\_shihou.pdf](http://fxgod.net/pdf/carlos_shihou.pdf)

(写真付き PDF)

【韓国に着いたら空港でバレリーナが踊っていた】  
【台湾の空港では「怪しいロボット」が働いていた】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/korea\\_taiwan.pdf](http://fxgod.net/pdf/korea_taiwan.pdf)



PDFレポート【アメリカ「GAFA」 対 中国「BATH」  
の恐るべき戦い、について考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/gafa\\_bath.pdf](http://fxgod.net/pdf/gafa_bath.pdf)

PDFレポート

【最近アメリカの大金持ちたちは  
100ドル札と金を備蓄しだしてる！？】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/us\\_rich\\_100dollar.pdf](http://fxgod.net/pdf/us_rich_100dollar.pdf)

写真付き PDF)

【韓国に着いたら空港でバレリーナが踊っていた】  
【台湾の空港では「怪しいロボット」が働いていた】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/korea\\_taiwan.pdf](http://fxgod.net/pdf/korea_taiwan.pdf)

年末の PDF レポート！

【金小売り価格がグラム5877円の  
「40年ぶりの高値」を 年末につけた意味、について考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/gold\\_2019high.pdf](http://fxgod.net/pdf/gold_2019high.pdf)

PDFレポート

【副島隆彦先生の新刊

「全体主義（トータリタリアニズム）の中国が  
アメリカを打ち倒すーディストピアに向かう世界」  
から考える！】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/soejima\\_distopia.pdf](http://fxgod.net/pdf/soejima_distopia.pdf)

PDFレポート

【FXもネットビジネスも「時間の配分」を工夫することで  
収益が10倍変わるっぽいという話】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/fx\\_timeshare.pdf](http://fxgod.net/pdf/fx_timeshare.pdf)

PDFレポート

【最近の日本の20代、30代、40代、50代は  
価値観が全然違う！？】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/japan\\_sedai.pdf](http://fxgod.net/pdf/japan_sedai.pdf)

## PDFレポート

【アメリカのミレニアル世代は年収3000万円でも  
米と豆食べている?】ことから考える!

⇒ [http://fxgod.net/pdf/us\\_millennial.pdf](http://fxgod.net/pdf/us_millennial.pdf)

(写真29枚) 【台湾の温泉街ジャオシーは  
ただただ素晴らしい】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/taiwan\\_jaoxi.pdf](http://fxgod.net/pdf/taiwan_jaoxi.pdf)

PDFレポート【2019年は結局「負けないこと」を徹底した人が  
資産を増やした、  
という話】

⇒ [http://fxgod.net/pdf/2019\\_makenai.pdf](http://fxgod.net/pdf/2019_makenai.pdf)

PDFレポート

【「聖なる夜」が「性なる夜」になってしまう日本文化の奥深さ】

について 真面目にクリスマスイブに考える！

[http://fxgod.net/pdf/jp\\_xmas.pdf](http://fxgod.net/pdf/jp_xmas.pdf)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆